

【実践報告 8】

—キャリア教育の一環としての実践を通して—

1 対象集団の状況

本校は、普通科と商業科・生活文化科を併設する全日制高校である。渥美半島に位置し、藩校として創設以来、今年度で200年目を迎える。「文武両道」の伝統を受け継ぎ、地域からの信頼が厚く、地元の中学校から本校に入学を希望する生徒は多い。特に普通科は地域の進学校であり、優秀な成績の生徒が入学してくる。商業科・生活文化科を志望する生徒はおおむね次の3種類の理由が当てはまる。

(1) 普通科に入学するには学力に不安があるが、どうしても本校に入学したい。(2) 部活動に熱心に取り組みたい。(3) 卒業後の目標が明確で、専門学科で学ぶ内容が希望する進路につながっている。

生徒の多くは、素直でまじめな努力家で、学習活動・部活動・学校行事いずれにも一生懸命取り組んでいる。しかし、積極性に乏しく、声をかけてもらうのを待っている生徒も目に付く。ほぼ8割の生徒が田原市内から通学しており、「中学校の時から顔を知っている」生徒が多い中、入学当初少数の生徒は「周囲が親しそうに話しているのを横目に見て」、孤立感と不安感を募らせている。

本校では、4月第2週に全校で面接週間を設定している。入学後1週間内に担任と個別に面談する機会となる。この面接で、地元ではない生徒の口から「同じ中学の人がいないので、話す人がいない」「周りの人たちは知り合いらしく仲良く話しているが、自分は話しかけづらい」という言葉が度々漏れる。

また、平成22年度より普通科が1クラス増となり、ますます新入生の学校環境への適応を図る必要度が増した。

2 実践内容

「小1プロブレム」「中1ギャップ」「高1の不適応」という言葉が広まりつつある。これは学習面・生活面だけではなく、人間関係においても言えるであろう。小・中学校において人的交流があまりない集団で過ごしてきた生徒たちは、高校に入学して初めて多様で活発な交流を要求され、体験する。また数年来の不況下で、学卒者の就職状況が一変した。成績や出欠状況だけでなく、職場や社会での人間関係を積極的に構築できる人材が求められている。

そこで、グループ・アプローチを利用し、人間関係における「高1の不適応」の解消だけにとどまらず、「生きる力」の一つとして、豊かな人間関係を構築する力を育成したい。本校では、「キャリア教育」を「総合的な学習の時間」の中心に位置付け、第1学年では、「自己を見つめる」をテーマの一つに据えた活動内容を展開している。他者とのかかわりを通して自らの「在り方・生き方」を考えるキャリア教育の一環として、グループ・アプローチを活用したい。

(1) 対象

ア 平成21年度 1年280名（普通科5クラス200名、商業科1クラス40名、生活文化科1クラス40名）

イ 平成22年度 1年321名（普通科6クラス241名、商業科1クラス40名、生活文化科1クラス40名）、2年200名（普通科5クラス）

(2) 時期・内容

4月当初はまだお互いをよく知らず、集団を作り始める時期である。そこで、共通の話題がもて、短時間で協力できる問題解決型のグループワークが適しているのではないかと考えた。

6月初めに実施する1年生の遠足は、班別で田原市内のオリエンテーリングを行う。2回目は遠足と関連づけて、お互いの理解を深めたり、自分の役割を見つめたりしながらコンセンサス（全体の合意）を図るグループワークを取り入れた。

ア 平成21年度

(ア) 4月第3週 問題解決型グループワーク「匠の里」

(イ) 6月第2週 合意形成型グループワーク「好きなプロスポーツは？」

イ 平成22年度

(ア) 4月第2週 問題解決型グループワーク「匠の里」（1年生）、「続・なぞの宝島」（2年生）

(イ) 5月第4週 合意形成型グループワーク「サバイバル」

【20年度の実践】

ア 代表委員による公開授業

グループ・アプローチを正しく理解している代表委員が公開授業を行い、「グループ・アプローチとはどのようなものか」を見学してもらった。

イ 現職研修による全職員の体験

2月に現職研修を実施し、グループ・アプローチ「匠の里」を体験してもらった。参加した教員の96%が「満足」「ほぼ満足」し、その際の感想は、「楽しかった」「別のグループワークも体験したい」といった肯定的なものがほとんどであった。

【21年度の実践】

ア 問題解決型グループワーク「匠の里」

(ア) ねらい

- ・互いに協力する体験を通して、対人交流を促す。
- ・グループで活動しているときの自分の動き（聴くこと・話すこと）に目を向ける。

(イ) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

担任の方がより生徒の実情に迫ることができると考え、実施経験のある代表委員が補佐し、各クラス担任にファシリテーターをお願いした。これにより、グループ・アプローチを実施できる教員の育成も図ることができる。学年主任がグループ・アプローチを肯定的にとらえ、代表委員・教育相談部と学年団が連携をとったことで、より効果的な実施ができたと考えている。

- ・担任が単独で実施（1クラス）
- ・担任がファシリテーターとなり相談部が補佐について実施（1クラス）
- ・相談部がファシリテーターとなり担任が参観（3クラス） ・相談部で実施（2クラス）

(ウ) 活動の内容

- ① エクササイズのねらいを示し、課題の内容やルールを説明する。
- ② グループの各メンバーに3～4枚ずつ情報カードを配布する。
- ③ カードに書かれている「匠の里」に関する断片的な情報を口頭で伝え合う。
- ④ 情報交換しながら「匠の里」の地図を作り、問題を解決する。
- ⑤ 各人で自分が思ったこと、考えたことを言語化する「ふりかえり」を行う。
- ⑥ 各グループ内で「ふりかえり」を発表し合う「わかちあい」を行う。
- ⑦ グループごとにわかちあった内容を発表し、ファシリテーターがまとめる。

(エ) 参加者の様子

入学直後ということで、名簿番号順でグループを作った。これは、1カ月間名簿順で座席を指定していること、清掃活動は年間を通じて名簿順で作った班で行うことを考慮したからである。ゲーム感覚で行えることもあり、問題解決自体はほとんどの生徒が楽しんで活動していた。しかし、全体の活動を見てみると、既に親しい生徒同士のいる班は冒頭から活発に活動していたが、まだ声を掛け合えない班も見られた。完成した後、話題が見つからずに黙ってしまった班も見られた。

■生徒の振り返り

- ・人の話を聞くことは大切だと思った。
- ・自分の意見が言えない人もいる。その時は言える人が聞いてあげることが大切だと思う。
- ・みんな仲良くなれた。 ・話したことがない人と話せた。 ・いろんな考えがある。

■担任から見た、グループワーク実践後の生徒の変化

- ・孤立する生徒が出現しなかった。
- ・話したことのないクラスメイトとなじめるようになった。 ・仲間意識をもてるようになった。
- ・エクササイズ後、早速携帯のアドレス交換をしていた。 ・少しずつクラスがまとまってきた。
- ・クラスになじめない生徒も友人を見つけて共にいる光景が見られるようになった。
- ・交流するきっかけになったが、これがこれから先の友人関係を直接結びつけるかは不明。

(オ) 課題

ゲーム性が強いので、ゲームに正解することに夢中になってしまい、プロセスまで目が向かない生徒がいた。グループ・アプローチの有意性を十分理解してもらえなかったり、グループ・アプローチは難しいという印象を抱いたりして、ファシリテーターになることに積極的でない教員もいる。授業時間を譲っていただいて実施したので、時間割の変更が難しく、担任が参加できないクラスもあった。

イ 合意形成型グループワーク「好きなプロスポーツは？」

(ア) ねらい

- ・グループとしての決定を行う際に、グループ・プロセス（各メンバーの感情やグループの動き）に目を向ける。

(イ) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

- ・担任が単独で実施（2クラス） ・担任がファシリテーターとなり相談部が補佐（5クラス）

(ウ) 活動の内容

- ① エクササイズのねらいを示し、課題やルールを説明する。
- ② スポーツに関する意識調査において、人気があった順番に、大相撲、プロ野球、プロサッカー、プロゴルフの4競技の順位について、まず個人で決定する。
- ③ 次に個人の決定を持ち寄り、グループの全員で合意し決定する。
- ④ 各人で自分が思ったこと、考えたことを言語化する「ふりかえり」を行う。
- ⑤ 各グループ内で「ふりかえり」を発表し合う「わかちあい」を行う。
- ⑥ グループごとに分かち合ったことを発表し、ファシリテーターがまとめる。

(エ) 参加者の様子

遠足と前後して実施したため、グループを遠足の班に設定した。遠足前に実施したクラスでは、遠足が円滑に進んだ一助になったと聞いている。遠足後に実施したクラスでは、このグループワークの実践当初からどの班も和気あいあいとしていた。

■生徒の振り返り

- ・いろいろな意見が出る。
- ・自分が思っていたよりみんなの意見が違っていて、話し合いは重要だと思った。
- ・人の意見をしっかり聞いた。
- ・少数意見の理由を取り入れていくことがとても大事だと気付いた。
- ・いろいろな価値観があった。
- ・話し合うと共感できることがたくさんあった。
- ・話し合っただけでは、答えが違っていても、納得いくことが分かった。
- ・遠足が楽しみ。
- ・自分から言わなきゃだめだ。

■教員の感想

- ・話し合うことの大切さや、他人の考えを聞くことの大切さを知るよい機会になったと思う。
- ・多様な意見を聞けるようになった。

(オ) 課題

個人の意見が一致してしまうと話し合いに至らないグループがあった。遠足班で実施したので1グループ8人であった。これはコンセンサスを得るための話し合いにはやや多い人数であり、話し合いに参加しない生徒、できない生徒がいた。

遠足の前に実施すれば、班の生徒同士で話し合う機会がもて、人間関係を深めるという点で、より効果があったのではないかと考えた。

ウ 現職教育

21年度も、教育相談部と連携し、グループ・アプローチを研修のテーマとして2月に実施した。前年と異なる点として、本校代表委員がファシリテーター（実施者）を務め、総合教育センターの指導主事に参観・指導していただく形式を採用した。これは、「経験の浅い教員でもグループ・アプローチを実施できる」ことを理解してもらい、翌年度の副担任による実施につなげるねらいがある。

この際、従来の指導案を提示するのではなく、着眼点や注意点なども併記した「シナリオ」を使用した。「シナリオ」を読み上げれば、誰でも一定以上の水準を保ったグループ・アプローチを実施できると考え、次年度に向けて作成を行った。

【22年度の実践】

前年度実践後の課題を検討し、次の5点の変更を加えた。

(1) 「総合的な学習の時間」の一環とする（資料1）

第1学年では「自己を見つめる」をテーマの一つに据え、キャリア教育の一環として、自己理解の深化を図る活動内容を展開している。そこで、総合学習の年間指導計画を策定の際、本研究を4月の取組の一つとして明確に位置付け、その具体的内容を、「グループの共同作業を通じて、自己理解と他者理解を図る」とした。そのため、入学式直後の早い時期（4月9日）にグループワークの時間を確保し、全クラス一斉に実施することができた。

(2) 学年団による実施

副担任が実施して、担任には観察に専念してもらう体制を作った。担任が観察に専念することで、リーダーとなる生徒や配慮を要する生徒を早期に発見できるし、副担任もクラス運営に積極的にかかわっていくことができる。また、グループ・アプローチを実施できる教員を育成する機会を増やす事にもつながる。

(3) 2年生の継続実施

20年度、本校では2年生になり不登校になる生徒が現れた。また、修学旅行を5月に控え、新しい人間関係の構築は2年生にとっても重要な問題である。そこで、研究を超えてはいるが、クラス替えのある普通科2年生は再びグループ・アプローチを実施した。

(4) 生徒の実情に沿った内容の変更

21年度の合意形成型グループワーク「好きなプロスポーツは？」は、本校の生徒には易しく、時間に余裕が見られた。そこで、やや難度の高い「サバイバル」を選択した。そのねらいも、「意思決定時の一つの方法としてコンセンサス（全員の合意）を学ぶ」ことを第一とした。

2年生には「匠の里」と同様の問題解決型グループワークで、より難度の高い「続・なぞの宝島」を採用した。この実践の振り返りは、「リーダーを発見する・プロセス（人的交流の結果）だけでなくグループ内での自分の役割を発見する・グループのメンバーの良いところを発見する」という項目があり、一層深い振り返りができると考えた。

(5) シナリオの採用

新転任などで研修を受けていない教員がいることを想定し、どの実践も前年度の研修で使用した「シナリオ」を採用した。

ア 問題解決型グループワーク「匠の里」

ねらい及び活動の内容は前年どおりである。

(ア) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

- ・副担任がファシリテーターとなり担任が参観（3クラス）
- ・副担任が単独で実施（3クラス） ・担任が単独で実施（2クラス）

(イ) 参加者の様子

無理のない分かりやすいレベルのグループワークであるので、生徒全体が積極的に臨み、みんなで取り組もうという姿勢が見られた。なかなかなじめないと思われる生徒も、後半以降積極的に参加していた。しかし、わずかではあるが、自分から伝えようという意識をもてず、教師が近づくと動く生徒も見られた。



【配られた情報カードを見る】



【グループでの話し合い】

実践後の感想や変化に昨年度と大きな違いは見られなかったが、目に付いたものは以下のとおりである。

■生徒の振り返り

- ・高校生になると、みんなコミュニケーションの取り方が上手だと思った。
- ・入学して初めていろんなことを話すことができていい実習だった。
- ・普段しゃべったことのない人と交流し触れ合ったことで、温度差が少し縮まった。
- ・一人では分わからないことも、お互いに意見を出し合うことで大きく気付きが広がると感じた。
- ・強制的ではなく自然にコミュニケーションがとれた。

■教員の感想

- ・初めてのファシリテーターも、全く緊張することなく、生徒たちが理解し行動できるように、実施の方向が明確でやりやすかった。
- ・素直な高校生らしい動きを感じることができた。
- ・病気療養後この学年に復学した生徒が、級友と交流するよいきっかけとなった。

イ 問題解決型グループワーク「続・なぞの宝島」(2年生)

(ア) ねらい

- ・互いに協力する体験を通して、対人交流を促す。
- ・グループで活動しているときの自分の動き（聴くこと・話すこと）に目を向ける。
- ・グループのメンバーの良いところに目を向け、ほめ合う。

(イ) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

- ・副担任がファシリテーターとなり担任が参観(4クラス) ・副担任が単独で実施(1クラス)

(ウ) 活動の内容

グループの各メンバーに3～4枚ずつ配布された情報カードに書かれている「遺跡」に関する断片的な情報（例えば、『サイカの扉を開けると、『光の間』がある』）を口頭で伝え合い、情報交換しながら「遺跡」の地図を作り、順路（宝への道順、脱出までの道順）を話し合う。

(エ) 参加者の様子

クラス替えでよく知らないメンバーもいる緊張はあるものの、前年度グループワークを2回経験しているので、最初からスムーズに取り組むことができていた。今回はどのような実習なのかとい

う、生徒の期待も感じられた。

■生徒の振り返り

- ・1年の時にやったことがあるので、話をスムーズに進めることができた。
- ・名前も知らない人と話すのは、予想以上にやりづらかった。
- ・やっているうちに会話がが増えていった。
- ・相手の言っていることを理解したり、自分が言いたいことを伝えたりするのは難しかった。
- ・みんなが意見を言い合わないまとまらないと思った。
- ・みんなで協力して何かに取り組むことは、できたときに達成感があり楽しい。
- ・もっと自分の意見を積極的に言うべきで、他人に任せきりの状態になっていた。(自分について)
- ・昨年よりルールが増えていて難しかったのに、いろいろ話せて楽しかった。
- ・他人の意見と自分の意見を合わせて何かを考えるのは、とても楽しかった。

ウ 合意形成型グループワーク「サバイバル」(1年生)

(ア) ねらい

- ・グループで何かを決める(意思決定)ときの一つの方法としてコンセンサス(全員の合意)を学ぶ。
- ・意見の違いをどのように調整して、皆が満足できるような決定づくりができるかを体験する。
- ・自分やグループのプロセスに注目して、仲間づくりをすすめる。

(イ) 活動の形態

各クラス単独で教室にて実施。

- ・担任が単独で実施(6) ・相談部がファシリテーターとなり担任が参観(1)
- ・副担任がファシリテーターとなり相談部が補佐、担任が参観(1)



【自分の考えた答えとその理由を記入】



【グループでの話し合い】

(ウ) 活動の内容

「ある国の山の中、道に迷ったあなた方は、その危機からどのように脱出して生き延びるのか…」このような状況で起こると予想される事柄についての質問に対して、まずメンバー一人一人が自分なりの答えを出す。次にグループでコンセンサス(全員の合意)によって答えを決定する。

(エ) 参加者の様子

グループを、遠足時のオリエンテーリング班(1班8名)に設定して実施した。すでに班長が決まっているので、班長のリードの下に話し合いをしている班が多かった。積極的に黒板を使用して説明している生徒もいた。ただ、コンセンサスを得るには人数が多く、全員が話し合いに参加しきれていないグループもあった。

■生徒の振り返り

〈全員の合意(コンセンサス)をどう思うか〉

- ・決めるのに時間がかかるが、よりよい意見が出て話し合いがよくなる。
- ・意見を言わなければ多数決と変わらない。一人一人がしっかり発言することが大切。
- ・何か決めごとをする時は多数決だったので、コンセンサスは難しかった。
- ・多くの思考を取り込みやすい方法だ。

〈気づき・感想〉

- ・視野が広がった。
- ・異なった意見を尊重することによってよりよい選択をすることができる。
- ・自分とは違った意見を聞いて、そんな意見もあるのかと気付くことができ楽しかった。
- ・みんなそれぞれ自然に役割ができていてよかった。仲良くなれてうれしい。

- ・発言しないと話合いにならないので、ちゃんとと言わないといけないと思った。

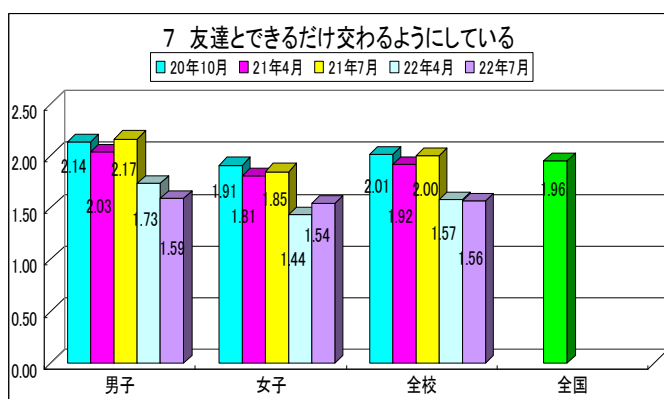
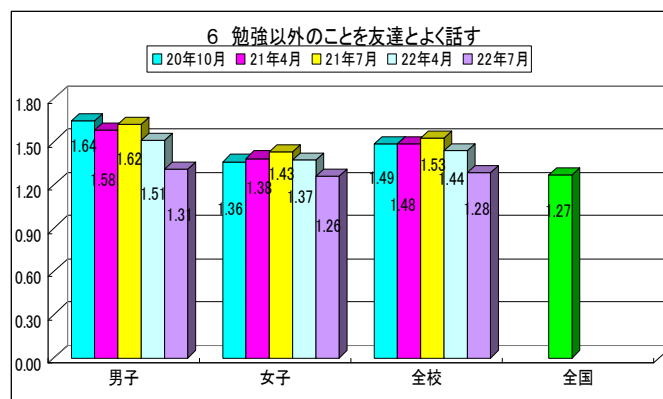
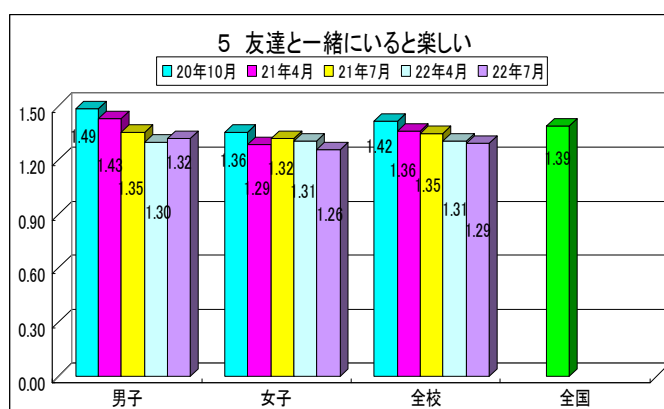
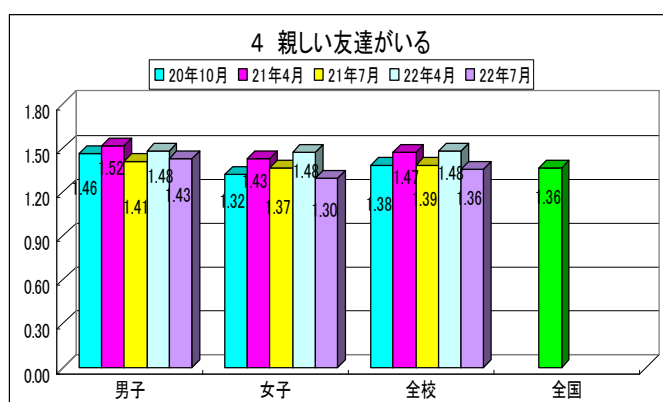
■教員の感想

- ・男子が目立たない女子の名前を覚え始めた。(逆も)
- ・グループによって、しっかり議論できたところとそうでないところと、いろいろあった。
- ・自分の意見を言う場面が多く見られた。
- ・生徒が、協力することの大切さを知るよい機会になったと思う。
- ・他の授業とは異なり、生徒の表情やコミュニケーションの様子を直接見ることができる。
- ・遠足前にグループとしてよい雰囲気になったと思う。

3 結果と考察

(1)「新入生の学校環境への適応度調査」より

【適応度調査結果】



友達関係については（設問４・５），おおむね良好ではないかと思われる。「友達と一緒にいると楽しい」と感じている生徒の割合がかなり高く，自分から交流を進めようとする意識も高い（設問７）。学校生活に慣れるにつれ「親しい友達がいる」割合も増えている。

- (2) アンケート調査（期待・不安について、グループワークを通じて感じたこと・気付いたこと）より

【平成 21 年度】

適応度調査と同時に 2 回実施。自由記述で回答。

ア 第 1 回アンケート（4 月実施・巻末資料 2）

『不安』を ①学習面 ②通学、校則などの生活面 ③人間関係 ④部活動 ⑤進路 に分類し、入学前の不安・入学直後の変化・不安の解消法について質問した。

【不安調査結果】

	学習面			生活面			人間関係			部活動			進路		
	入学前	入学後	解消率	入学前	入学後	解消率	入学前	入学後	解消率	入学前	入学後	解消率	入学前	入学後	解消率
継続	258	94		150	19		233	16		203	36		129	76	
解消		156	60%		128	85%		214	92%		162	80%		50	39%

※277 名調査・無回答あり 斜体は入学後も継続している不安の実数を表す

① 学習面の不安

- ・勉強について行けるかどうか
- ・予習する習慣を身に付けられるかどうか

〈解消群の解消方法〉

- ・今のところは何とかなりそう
- ・予習復習をしっかりとやる
- ・授業を受ける
- ・努力する
- ・友人に聞く

② 生活面の不安

- ・遅刻せずに登校できるか
- ・学校が遠い
- ・校則が厳しいか
- ・バスに間に合うか
- ・下校時間が何時になるか
- ・一人でちゃんと通学できるか

〈解消群の解消方法〉

- ・早く家を出る
- ・一緒に行く人を見付ける
- ・友達や先輩に聞く
- ・先生の話聞く

③ 人間関係の不安

- ・新しい友達ができるか
- ・先生は優しいか
- ・上下関係は厳しくないか

〈解消群の解消方法〉

- ・自分からも積極的に話しかける
- ・いっぱい話す
- ・いろんな人に話しかける
- ・あまり気にしすぎない

④ 部活動の不安

- ・どの部活動に入部するか
- ・勉強と両立できるか
- ・先輩は怖くないか
- ・3 年間続けられるか
- ・希望の部活動に入部できるか
- ・練習についていけるか

〈解消群の解消方法〉

- ・たくさん部活動見学に行った
- ・先輩から話しかけてくれた
- ・真剣に取り組んだ
- ・同じ部に入部した人たちと励まし合って練習した
- ・慣れた
- ・勉強と両立できる部活動に入った

⑤ 進路の不安

- ・どこに進学しようか ・どういう大学に行きたいか

〈解消群の解消方法〉

- ・とにかく勉強する ・資料を見る ・先生の進路の話をよく聞く

学習面と人間関係に不安を抱いていた生徒が多い。不安が最も少ないのは進路である。これは、高校合格直後の安心感や期待感が大きくて、進路に対する不安までいたらないと推測できる。

不安の解消率が最も大きいのは人間関係である。新しい人間関係をおおむね自力で構築できたことを表している。

イ 第2回アンケート（7月実施・巻末資料3）

入学前の不安の解消の確認・現在の不安(新しく不安となった項目も含む)・入学前の期待について質問した。

【入学前の不安と期待調査結果】

		実数	%
入学前の不安	解消された	226	82
	解消されていない	51	18
入学前の期待	大きくなった	146	54
	変わらない	96	35
	小さくなった	31	11

〈現在の不安〉（以下の数字は記述回答の実数、複数回答あり）

① 学習面 147名

- ・授業についていけない ・成績が下がった ・進級できるか ・学習時間が足りない
- ・検定に受かるか

② 生活面 5名

- ・疲れやすい ・睡眠時間と学習時間

③ 人間関係 10名

- ・もっと仲よくなれるか ・3年間このクラスでやっていけるか ・友人関係

④ 部活動 16名

- ・ついていくのが大変 ・勉強との両立が難しい ・帰宅時間が遅い ・先輩が厳しい
- ・上達しない ・続けられるか ・休みがない

⑤ 進路 35名

- ・希望する大学に行けるか ・やりたいことが見つかるか ・就職できるか

特になし 110名

〈入学前の期待〉

① 学習面 7名 ② 生活面 104名 ③ 人間関係 77名 ④ 部活動 115名 ⑤進路 4名

入学前の不安はほぼ解消されている。継続している不安は学習面が多い。現在の不安については、多くの生徒が学習面を挙げている。これは授業の進度が上がってきたためであろう。特に、特定の教科に対する不安が多く見られる。このアンケートの1ヶ月前から2年次の文系・理系の選択に迫られているため、進路に対する不安も増加している。部活動についての不安も、学習と

の両立にかかわることが多い。

入学前の期待や楽しみは、生活面（学校行事）・人間関係（新しい友達やクラス）・部活動を挙げている。その期待が「大きくなった」・「変わらない」という回答が、9割近くあった。「小さくなった」生徒の中にも、「みんなのことを知ったから」「期待どおりだったから」という回答が複数あった。体育大会・文化祭という大きな学校行事に向けて、クラスで具体的な取り組みが始まるこの時期に、大きな期待感を持って学校生活を過ごせているのは、良好な人間関係が構築できているからであろう。

ウ グループワークでの変化について（7月実施・巻末資料3）

第2回アンケートで、2度のグループワーク経験後の自己の変化・周囲との関係の変化についても質問した。「ふりかえり」と「わかちあい」の効果を確認するためである。グループ・アプローチでは集団でワークに取り組んだ後、「ふりかえり」で自分の心や行動について向き合う。さらに、自分の「ふりかえり」をグループ内に発信する「わかちあい」で、メンバーと心の交流を深めていく。客観的に比較・判断することは難しい項目ではあるが、主観的であっても、本人の自覚を示してもらうことは重要だと考えた。

【グループ・ワークでの変化について】

	自己評価	実数	%
自己変化	周囲を尊重・協力できるようになった	78	28
	積極的になる・主張できるようになった	20	7
	相手の話を聞いて、多面的思考ができる・新たな考えを創造できるようになった	140	50
関係変化	周囲との関わりに積極的になった	191	68
	親交が深まった	82	29
	クラスの雰囲気が良くなった	15	5
	周囲が自分を理解してくれた	3	1

※277名調査・無回答あり

ほとんどの生徒が何らかの変化を自覚できている。自由記述で回答してもらったが、同じような意見を集約すると、自己の変化については3項目、周囲との関係の変化については4項目にまとめることができた。

〈自己変化〉

- ① 周囲を尊重・協力できるようになった。→視野が広くなり、周囲の動きに目を向けられるようになった。
- ② 積極的になる・主張できるようになる。→自ら働きかけて人的交流を活性化した。
- ③ 相手の話を聞いて、多面的思考ができる・新たな考えを創造できるようになった。→思考の交流ができるようになった。

〈関係変化〉

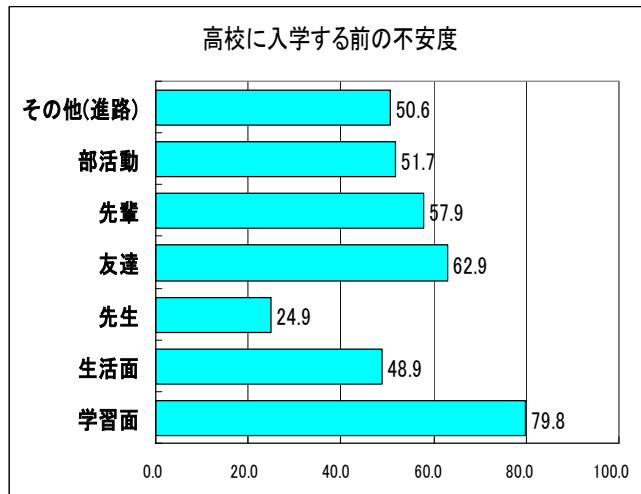
- ① 周囲とのかかわりに積極的になった。→自ら人的交流を広めることができた。
- ② 親交が深まった。→自ら人的交流を深めることができた。
- ③ クラスの雰囲気がよくなった。→全体を見ることができた。
- ④ 周囲が自分を理解してくれた。→周囲から見られている自己をとらえることができた。

【平成 22 年度】

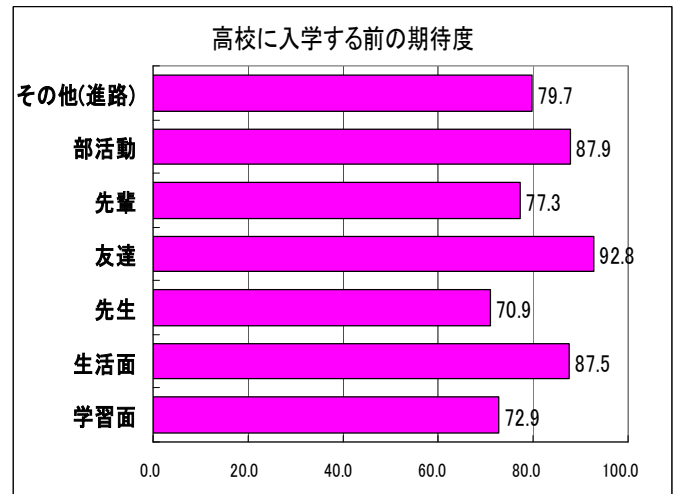
適応度調査の中に設問を入れて実施。「期待」・「不安」については具体的内容を記述して回答。

【平成 22 年度アンケート結果】

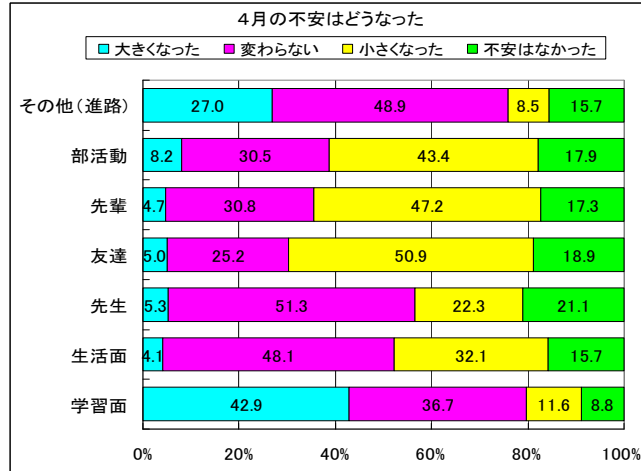
【グラフ A】



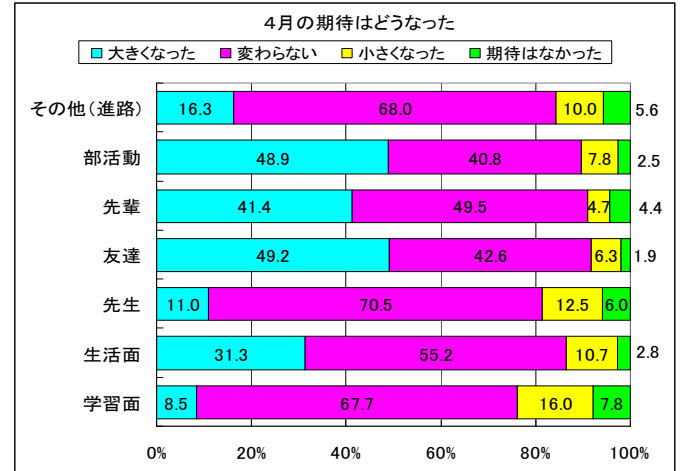
【グラフ B】



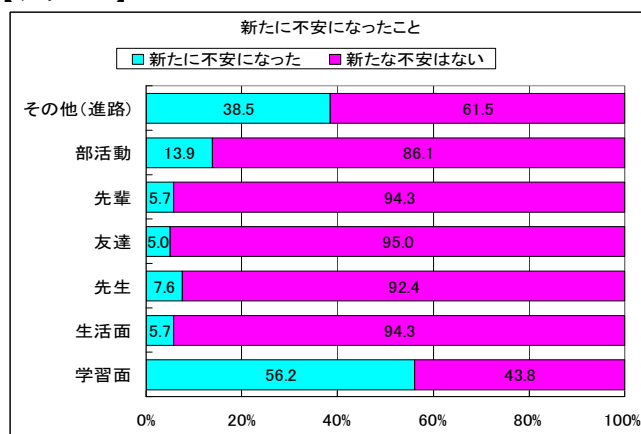
【グラフ C】



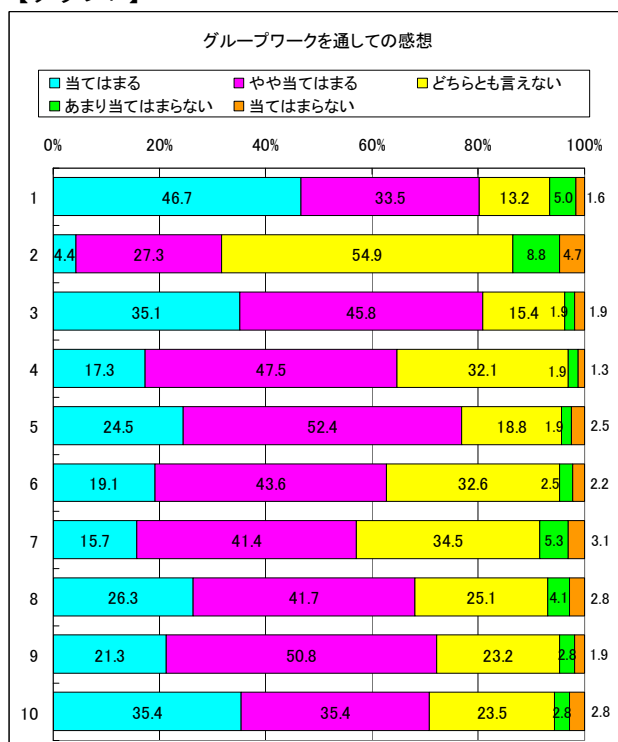
【グラフ D】



【グラフ E】



【グラフ】



- 1 みんなでやると楽しかった。
- 2 自分のよさや、自分のことについて分かってきた。
- 3 友達のよさや、友達のことについて分かってきた。
- 4 自分の気持ちが分かってもらえてうれしかった。
- 5 友達の気持ちを思いやるようになってきた。
- 6 自分の意見が言えるようになってきた。
- 7 協力することや、団結することが大切だと分かった。
- 8 お互いの意見を、ちゃんと聞き合うことが大切だと分かった。
- 9 みんなと仲良くできるようになったと思う。
- 10 クラスの雰囲気がよくなったと思う。

グループワークを経験して、「自分が変わったと思うこと」・「周りの人との関係で変化したと思うこと」・「感じたこと、気付いたこと」についての記述回答では、

- ・自分の意見を言うことに少しだけ自信をもてた。 ・少し積極的に話せるようになった。
- ・クラスの中で話したことがなかった人とも話せるようになった。
- ・誰とでも話せるようになった。 ・クラスの空気に溶け込めた気がする。
- ・もっと仲良くなれたらいいなと思った。

など、人間関係の変化や、それに伴う不安の解消に関する内容が多かった。

昨年度と同様に、入学前は学習面と友達に関する不安度が大きい(グラフA)。学習面では、「留年」・「宿題の量」・「進路」・「授業について行けるか」など、人間関係では、「クラスに同じ中学の人がいない」・「違う中学の人との人間関係」・「田原の人ばかりで不安だった」・「先輩にいじめられないか」などの不安が記述回答に多く見られた。期待度が大きいのは、友達・部活動・生活面である(グラフB)。中学は通学範囲が狭く、また部活動も限定されている。部活動・学校行事の多さ、電車やバスでの通学、新しい友達・先生・先輩との出会いなど、高校生活に期待することはいつの時代も変わらないと感じた。また、「将来に役立つ技術や資格の取得」・「専門的なことを学べるので、自分の技術が高められる」といった、専門学科での学びの期待もあった。

人間関係や部活動に関する不安は、学校生活に慣れるに従って解消され、その分期待が大きくなっている(グラフC, D)。特に友達や部活動について、5割近くの生徒が「期待が大きくなった」と答えている。新たに不安になったことは、昨年度と同様、やはり進路と学習面である(グラフE)。

グループワークについては(グラフF)、「みんなでやると楽しかった」・「友達のよさや、友達のことについて分かってきた」・「友達の気持ちを、思いやるようになってきた」の項目で、ほぼ8割の生徒が「当てはまる」・「ほぼ当てはまる」と答えている。新しい学校環境での仲間づくり、また他者理解という点で有効であったと考える。ただ、「自分のよさや、自分のことについて分かってきた」の項目については、肯定的な答えが3割しかない。自分の動きや感情に目を向ける自己理解までは至っていないようである。

(3) 考察

生徒は、人間関係を筆頭に学習、部活動、生活と様々な不安を抱いて入学してくる。本校生徒は、友達・先輩・先生など多くの人との新たななかかわりの中で、その不安を自分なりに解消し、良好な状態で学校環境に適応している。人間関係については、グループ・アプローチが不安解消に有効な手助けをしていると言えよう。グループ・アプローチによって、生徒は人的交流を進める楽しさを知り、級友と積極的に交流を活性化させている。また、その交流の中で、友達のよさを認め、自分の所属するクラスや部活動、学校に対する安心感をもてるようになっていく。

学校環境への適応のみならず、コミュニケーション能力・自己伝達能力・自他の理解能力を磨き、人間関係形成力を養成する手だてとしても、グループ・アプローチは有効に働いていることが、生徒の振り返りからうかがえる。

4 今後の課題

(1) 実施時期

新入生の適応を促す取組は、入学後のできるだけ早い時期に学年全体で取り組むと、より大きな効果が期待できる。他学年ではあるが、始業式2日後から不登校になった生徒がいた。前年度のクラスの友人や、部活動の友人らの援助もあって現在は通級できるまでに回復しているが、これが新入生で、同じ中学校から来た生徒がほとんどいない場合どうなったであろうか。

クラスが替わる4月、夏休み明けで学校行事が続く9月、学期のスタート時は、新入生だけでなく在校生にとっても、人間関係に不安を抱きやすい時期である。年間を通して継続的に、また3年間を見通して計画的に実施する必要性を感じる。遠足・修学旅行・体育大会・文化祭など、クラス単位で取り組む学校行事と連携させていくと、相乗効果を図ることができる。22年度は「総合的な学習の時間」の年間指導計画の中に位置付け、グループワークの時間を確保したものの、十分とは言えない。普通科・商業科・生活文化科では教育課程が異なるため、学年一斉にグループワークの時間を確保することが難しい。朝や帰りのS T時にショートエクササイズを実施するのも、一つの方法かと考える。

(2) グループの構成

2度のグループワークは、違うメンバーで実施した。メンバーが異なれば、自分の役割も周囲の動きも変化があったと推測できる。一方、同じメンバーで継続してグループワークを実施すると、グループの持ち味や、メンバーの新たな一面を発見することになるであろう。

(3) グループ・アプローチが苦手な生徒への対応

どのワークでも、数名ではあるが、グループワークを苦手、不快と回答した生徒がいた。しかし、「自分の意見をしっかりと伝えるようにしないといけないと思った」・「ちゃんと話合いに参加できるようになりたい」と、自分自身に向き合った振り返りができており、ワークそのものは肯定的にとらえている。また、合意形成型のグループワークでは、少数に耳を傾ける大切さに気付いた生徒が多数いるので、グループワークが苦手な生徒を援助できる生徒の育成や、集団としての仲間意識の形成も期待できる。

ファシリテーターが活動中の生徒の発言や行動をよく観察し、苦手、不快でないような要因を「ふりかえり」から探り、次の内容やグループ構成に生かすことが大切だと考える。

(4) ファシリテーターの育成

本校のグループワークは、多少経験がある教育相談部員だけではなく、全く経験がない担任・副担任もファシリテーターを務めた。経験のない教員がファシリテーターを務めても「ふりかえり」「わか

ちあい」の感想を見ると、生徒は十分な気付きを得ている。習熟したファシリテーターを待つ活動しないより、未熟ではあっても多くの教員がファシリテーターとなって実施し、様々なパターンのグループワークを実施してはどうだろうか。そのためには、教育相談部が中心となった現職研修が重要となる。

参考文献

- 『Creative School』 (プレスタイム社)
- 『協力すれば何かが変わる』(続・学校グループワーク・トレーニング) (遊戯社)
- 『人間関係づくりトレーニング』 (金子書房)
- 『予防開発的教育相談の推進に関する研究－行事をいかすグループ・アプローチの取組を中心として－』
愛知県総合教育センター相談部教育相談研究室(2004)

【資料1】

総合的な学習の時間（第1学年普通科）年間学習指導計画書

1 実施内容および指導体制

「キャリア教育～自己理解の深化を図る」

- (1) 「自己を見つめる」をテーマに、諸活動を通じて自分を知るとともに、他者の価値観や個性のユニークさを理解し、受容する能力を養う。
- (2) 「郷土からの視点」「環境」をテーマに、郷土の歴史・文学・自然について、体験学習も含め、多角的な視点から学習した上で、次第に視野を広げ、自己を取り巻く地域環境や現代日本社会の仕組みを学習する。
- (3) 国語科を中心に、1年学年会や情報研修部、他教科の教員が協力して指導にあたる。

2 年間指導計画

時間	月	テーマ	実施単位	具体的内容
1	4	オリエンテーション	クラス	総合学習の説明。
2		「自己を見つめる」①	クラス	グループの共同作業を通じて、自己理解と他者理解を図る。
3		グループアプローチ「匠の里」	クラス	
4		「自己を見つめる」②	クラス	
5				作文「自己を語る」およびクラスでの発表。
6	5	田原市内オリエンテーリングの事前学習	クラス	『小説渡邊崋山』、松尾芭蕉『笈の小文』等
7				
8	6	田原市内オリエンテーリングの実施	学 年	文学歴史散策と自然観察（1年学年会と協議）。 まとめと反省。
11				
12	7	テーマ学習研究 （学校祭に向けて）	クラス	郷土に関する研究・創作（研究発表、太鼓、劇、展示物作成等。図書館、インターネットなども利用する。）
13				
14～	9	テーマ学習まとめ （学校発表準備）	クラス	
16				
17	10	環境学習	学年	環境に関する講話などを実施し、その後、環境ボランティア活動を行う。
18				
19		情報モラル	クラス	インターネット、携帯電話によって引き起こされるいじめ等の諸問題を生徒自らが調べ、対処方法を話し合う。
20				
21				
22	11	「自己を見つめる」③	クラス	「日本人のアイデンティティ」、「日本語の変化と乱れ」、「格差社会」等のテーマを設定し、自ら調べたことを小論文にまとめ、クラスで発表する。
23				
24				
25				
26	12	郷土自然学習	学年	外部講師による講話（事前指導）。 汐川干潟にて、バードウォッチング・自然観察。（情報研修部と協議）
27				
29				
30～	1	「論語」を読む	クラス	校名の由来等について学ぶ。
32				
33	2	「自己を見つめる」④	クラス	自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばす方策を考え、レポートにまとめる。
34				
35	3	反省とまとめ	クラス	1年間の反省と自己評価

【資料2】

新入生の学校環境への適応に関するアンケート

みなさんは高校に入学する前、どんな不安を感じていましたか。また、入学後、その不安はどうなりましたか。学習面、生活面、人間関係、部活動、その他の5項目について、以下のシートに記入してください。

	入学前、何が不安でしたか。	入学して、その不安はどうなりましたか。	どのように不安を解消しましたか。
学習面			
生活面 通学や 校則など			
人間関係 友人や 先生、 先輩など			
部活動			
その他 卒業後の 進路など			

【資料3】

1年生の学校環境への適応に関するアンケート

1年 組 番：氏名

1 みなさんには4月のアンケートで、不安に思っていること(学習，生活，人間関係，部活動，その他進路など)について答えてもらいましたが，現在はどうでしょうか。

(1) 入学前に不安に思っていたことは，現在解消されていますか。

はい いいえ (理由

)

(2) 現在，不安に思っていることは何ですか。

(3) 入学前に期待していたこと，楽しみにしていたことは何ですか。

(4) (3)の期待や楽しみは，今現在どうですか。

大きくなった 変わらない 小さくなった

(理由

)

2 4月におこなったグループワーク「匠の里」と，6月に行ったグループワーク「好きなプロスポーツは？」を経験して，自分が変わったと思うことを記入してください。

3 2度のグループワークで周りのクラスメイトとの関係がどう変化しましたか。